

特色ある学校



活力ある学校づくり

長崎県立長崎工業高等学校長
井形 清

1. はじめに

本校は、昭和12年4月、工業技術者育成という県民の強い要望を担って、長崎市丸尾町水産試験場内の元水産講習所跡を仮校舎として、応用化学科、造船科、木材工芸科の3学科を擁する長崎県立長崎工業学校として創立された。

太平洋戦争の末期、昭和20年8月9日、松山上空に炸裂した原子爆弾によって、校舎は一物も残さず焼き尽くされ、校長以下職員・生徒2百余名の尊い生命が奪い去られるという、本校歴史の中でも最大の痛恨の出来事があった。仮校舎や他校の校舎を一部借用して授業を再開せねばならないという、苦難の連続の時期があった。昭和25年、家野町に本校舎が建設されたことにより、5か年の仮住まいから、安住の地を得ることができた。このような変遷を重ね、昭和46年、岩屋町の現在地に移転し、施設・設備も整い、素晴らしい環境のもとで工業技術の習得に励み、現在にいたっている。

その間、昭和33年には、全国に先駆けて電子工学科が新設された。また、現在は、全日制が機械科、電子機械科、造船科、電気科、工業化学科、建築科、インテリア科、電子工

学科、情報技術科の9科27学級、定時制が工業技術科、建築科の2科8学級の、県下全公立高校中最大規模の学校となっている。

卒業生もすでに2万有余名を数え、県内は勿論、全国各地の各界各層で大いに活躍している。

2. 学校の活性化

国際化・情報化の進展など急速な社会の変化、生徒の多様化・少子化による生徒数の長期的な減少など、学校を取り巻く環境は年々厳しさを増してきている。

一方、国内の産業界は、産業構造や就業構造の大転換に加え、産業の空洞化が急速な勢いで進んでいる。また、製造部門では、技能者の高齢化に加え若者の製造業離れとが相まって、これから先、製造業はますます厳しくなることが予想される。このような情勢を考えたとき、工業高校は、21世紀の国内製造業を支える有能な実践的技術者を育成する最大の責務があると思われる。

本校は、本県及び国内の製造業を支える実践的技術者の育成を図ることを目的とし、ものづくりを通して知識・技術及び技能を修得させ、同時に校訓の「技術の真髄をつかめ」のもとに人間としてあるべき姿を追求させて

いる。

また、地域の方々から愛され信頼される学校づくりを目指し、学校の活性化を促進するために、「資格取得」「ものづくり」「多様な進路」の三つをキーワードとして掲げ、この実現のために全校生徒一丸となって努力している。

3. 資格取得

これからの社会は、資格の時代といっても過言ではないと思う。高度な技術・技能を必要とする仕事や危険を伴う作業等には、当然、それに相応しい資格が要求される。企業で資格を有していることは、その人の専門能力の高さを表すバロメーターとして評価される時代である。企業の求人が、高校生から大学生にシフトしている現在、資格を取得していることは、高校生であっても、一定水準の知識・技術及び技能を有していると公に認めて貰えることになる。そう考えると、資格が進路の大きな決め手になると確信している。

本校では、進路指導の一環として、低学年から国家資格や各種資格を意図的に取得させている。資格取得に向けた取り組みは、専門能力の向上に繋がり、将来の進路選択に幅ができ、就職が有利になることが期待できることから、資格取得を、大いに奨励している。

さらに、本県工業高校では、「工業は一つ」を合い言葉に、県全体でも積極的に資格取得に取り組んでいる。特に難関の資格である第3種電気主任技術者試験については、平成11年度から県内工業高校受験者を一堂に集め、3泊4日の日程で合同宿泊勉強会を開催している。合宿中は、各学校の教職員が、お互いの高校の枠を超えてすべての生徒に指導を行い、全体のレベルアップと合格率の向上を図っている。

本校では、第3種電気主任技術者試験が核となり、他の資格取得に効果が波及している。その結果として、ジュニアマイスタ申請が全国でもトップクラスにある。

平成14年度 国家資格取得状況

国家資格	人数	国家資格	人数	国家資格	人数
初級システムアドミニストレータ	1	高圧ガス製造保安責任者乙種化学	2	高圧ガス製造保安責任者丙種化学	7
高圧ガス製造保安責任者3種冷凍機械	11	車両系建設機械運転技能者(基礎工事)	103	工事担任者アナログ・デジタル総合種	5
工事担任者アナログ第1種	3	工事担任者デジタル第1種	23	工事担任者デジタル第3種	2
電気工事施工技術者	31	第1種電気工事士	50	第2種電気工事士	122
第3種電気主任技術者	13	建築施工技術者	27	ソフトウェア開発技術者	1
ボイラー技士2級	72	火薬類取扱保安責任者乙種	3	危険物取扱者乙種1類	46
危険物取扱者乙種2類	47	危険物取扱者乙種3類	40	危険物取扱者乙種4類	42
危険物取扱者乙種5類	42	危険物取扱者乙種6類	27	普通旋盤作業3級技能士	3

平成14年度 ジュニアマイスター取得状況

認定内訳	前期(人数)	後期(人数)	合計	総合計
シルバー	15	59	74	103
ゴールド	5	24	29	

4. ものづくり

いつの時代でも産業界の基本は何といても、ものづくりの技術・技能である。我が国が今日まで、世界のなかでも有数の工業立国として繁栄してきたのは、ものづくりの技術・技能があったからである。産業界の最先端技術には優れた技能の裏付けが必要であり、技能の重要性が再認識されている。今こそ、その技能を継承することが、ますます重要になってきている。

本校では、技術・技能の基本を学び、産業界に貢献できる実践的技術者育成を目的とし、豊かな感性に基づく独創性や柔軟性に富んだ発想力・思考力でものづくりができるように、ものづくり教育を推進している。

「ものづくりによる人づくりの学校」を目指して、各種大会等に、創意工夫を凝らした作品で参加している。また、技能を競うことでレベルアップを図り、技術・技能の習得に励んでいる。

ものづくり教育を推進するには、教職員の技能養成を積極的に行う必要がある。そこで、ものづくりのノウハウを習得するため、教職員技能研修として「ものづくり技能伝習塾」を、県工業校長会主催で平成13年度から実施し、各専門分野のものづくりの基盤となる技能について研修を深めている。

ものづくりの様子は、以下のとおりである。

(1) 各種大会ならびにものづくり

①高校生ものづくりコンテスト

県大会は平成13年度から実施

平成14年度「高校生ものづくりコンテスト全国大会」機械系旋盤作業部門優勝、化学系化学分析部門第3位

②高校生ロボットコンクール

県大会は平成4年度から実施

平成14年度県大会準優勝

③ホンダエコノパワー燃費競技九州大会 (熊本県)

平成5年度第8回大会から参加

平成14年度第18位

④柳川ソーラーボート大会(福岡県)

平成8年度から参加

平成14年度周回レース第4位

⑤させば夢の船コンテスト(長崎県)

平成8年度から参加

平成14年度タイムトライアル第7位ロングラン第4位

⑥模型アイデア船コンテスト(長崎総合科学大学)

平成10年度から参加

平成14年度準優勝

⑦長崎工業高校インテリア科展

インテリア科で製作したアイデアあふれるインテリア作品・製品を平成3年度から校外展として実施

⑧ものづくりフェスタinながさき

長崎県ならびに県職業能力開発協会及び県技能士連合会主催で平成14年度開催されたものづくりフェスタに、技能士連合会の方々には混じって、長崎くんちの出し物「龍踊り」を「龍踊りロボット」として製作し、参加する。

⑨ものづくりによる奉仕活動

課題研究で製作したりハビリ用玩具を、平成12年度から養護学校へ寄贈し、機能回復の手助けをしている。

⑩技能士

平成14年度に、初めて職業開発能力協会主催の技能士検定試験を受験し、普通旋盤作業3級技能士に3名合格する。

(2) 教職員研修「ものづくり技能伝習塾」

ものづくり教育を推進するには、教職員のものづくり指導技術が大きなウェートを占める。教職員の技能研修は、主に県教委が主催

する「県内事業所等委託実技研修」を実施していた。しかし、これまで見過ごされてきた技能の見直し及びその伝習が急務となってきたため、夏季休業中に各工業高校の施設・設備を利用し、講師に工業高校退職者や技能に優れたベテラン教師及び高度熟練技能者等の民間人材を活用して、教職員に熟達した技能・技術を伝承する「ものづくり技能伝習塾」を平成13年度から実施している。

5. 多様な進路

学校生活の中で自分の興味・関心や適正・能力に応じて進路選択ができるよう、就職対策、進学対策にきめ細やかな配慮をし、就職もでき進学もできる学校づくりを目指している。

就職希望者に対する取り組みの一例としては、インターンシップを導入している。職業観・勤労観の育成と産業界で求められる技術・知識を身に付けさせるため、平成9年度から建築科の生徒に県建設業協会の協力を得て実施し、平成14年度からは機械系の生徒にも製造業のインターンシップを導入している。インターンシップをすることにより自身自身の能力や適性を試し、県内企業への関心と理解を深め、職業人としてのキャリア形成に役立てている。

進学希望者に対する取り組みの一例としては、平成11年度から進学ガイダンスを開催している。県内工業高校の進学担当で組織し

ている工業高等学校進学連絡協議会が、各校の国・公立大学ならびに難関私立大学進学希望者を一堂に集め、夏季休業中に合同受験合宿を行い実績をあげている。また、年度末には国・公立大学合格者と工業出身現役国立大学生との懇談会を開催し、合格者のフォローに努めている。

6. おわりに

生徒急減期の中で、特色ある学校として地域の方々や中学生に本校を広く理解していただく手段として、ホームページによる情報発信は勿論、それに加えて平成14年度から「長崎工業hotインフォメーション」という本校に関する情報を満載した広報紙を、年2回地域に配布している。また、夜、地域に出向いて学校説明会を開催するなど、中学生が主体的に本校を選択してくれるよう努力をしている。

また、ものづくりを中心に据え、県内企業に貢献できる人材を育成するには、企業が必要とする資格のニーズを調査し、それに見合う資格を取得させる努力が必要と考えている。

県教委は「ものづくりは人づくり」という視点から、工業高校における技術・技能の習得と、その水準の維持向上のために、平成15年度新規事業として「高校生ものづくり推進事業」を立ちあげ、工業高校生のものづくり教育を積極的にバックアップしてくれている。

感性や創造性といった素養や素質を十分に備えた人材育成を目指し、さらに「活力ある学校づくり」に努力しなければと決意を新たにしているところである。

本校における平成14年度の合格者

校 種	人 数
大 学	国公立 15
	私 立 34
短 大	4
高 専	11
各種学校	69